

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2017～2018年度 国際ロータリー イアン H.S. ライズリー 会長テーマ

ROTARY : MAKING A DIFFERENCE ロータリー : 変化をもたらす

創立 1954年3月8日
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 吉原 孝彦
幹事 出口 達也
会報委員長 佐野 彰彦

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3010回例会プログラム

[当年度=36回目；当月=3週目]

2018年（平成30年）5月21日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……………〈副会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱
……………それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
- 12:45 7. 副会長挨拶並びに副会長報告
8. 新入会員挨拶……………二村 寿泰 会員
……………永利 謙介 会員
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(5/28) ……卓話
講師 地区社会奉仕委員会
委員長 杉浦 文雄 様
副委員長 塩谷 和久 様
(紹介者 加藤大志朗 会員)
(6/4) ……
卓話 「地区補助金事業について」
講師 クラブ社会奉仕委員長
野村紀代彦 会員

2. クラブフォーラム……………〈青少年奉仕委員会〉

- 13:00 「私の留学～8月から今まで」
青少年交換学生
ローウェン・ステファンソン 君
「RYLA セミナー参加報告」
犬塚 望 様 (日高工業株式会社)
前田 純樹 様 (愛知教育大学) ※委員長代読
(紹介者 奥野 櫻子 会員)

14. 謝辞
15. 点鐘……………〈副会長〉
16. 閉会宣言

13:30 17. 散会

ゲ ス ト

新入会員予定者 ^{みやち ひでまさ} 宮地 秀将 様

出 席

会員総数 94名 出席免除 24名
出席義務者+免除者の内例会出席者 82名
欠席 6名 出席率 93.20%
前々回 (5/7) の修正出席率 100%

副 会 長 報 告

- 1) 5月10日木曜日、多治見カントリークラブにて、5月ゴルフ例会を開催致しました。グロス94、ネット74にて、神谷光義会員が優勝されました。
- 2) 5月20日日曜日、刈谷音楽協会定期総会に、吉原会長が出席されました。

幹 事 報 告

- 1) 本日、二村寿泰会員、永利謙介会員が入会されました。会員数は94名となりました。二村寿泰会員は、親睦活動委員会、永利謙介会員は、会場委員会の配属となります。

副 会 長 あ い さ つ

堀田 昌義



今回は映画の話からです。「サウンド・オブ・ミュージック」は皆さんもよくご存知だと思いますが、この映画現地オーストリアではあまり人気がないのだそうです。

元々はアメリカで成功した音楽一

家の話を、映画ではファシズムと戦った英雄を、自由の象徴たるアメリカが温かく受け入れるという単純な構図に仕立てあげてしまったため、ナチス・ドイツに併合され、苦しんだ人も多くいたオーストリア人からすると、この映画のあまりの能天気さが、人気がない理由のようです。

ところで、ドイツ人とオーストリア人の気質は相当異なっています。ドイツといえば「勤勉」「几帳面」といったイメージですが、オーストリアは一言でいうと「いい加減」ということになるのだそうです。

近世の歴史を見ると、プロイセン（ドイツ）の軍隊はめっぽう強かったのに対し、ハプスブルク家（オーストリア）は、巧みな婚姻政策によって16世紀には日の沈まない帝国と言われるまでになっていますから正に対照的です。「いい加減」というのは、こうした多民族社会の融和を進めるためにも必要だったのでしょう。

現在、オーストリアは世界に冠たる観光国ですが、音楽をはじめとする豊かな文化遺産も、ハプスブルク家の文化政策だけでなく、この「いい加減」からくる居心地の良さが、ヨーロッパ各地から優秀な才能を集めた賜物であり、これが現在の観光立国にも大いに寄与しているのだと思います。

新入会員紹介

氏名 ふたむら としひろ 二村 寿泰
 生年月日 昭和32年5月20日
 推薦者 室殿 豊 会員
 職業分類 老人ホーム
 事業所名 (株)博愛ナーシングヴィラ
 役職名 代表取締役
 所属委員会 親睦活動委員会



二村 寿泰 会員

氏名 ながとし けんすけ 永利 謙介
 生年月日 昭和46年11月1日
 推薦者 盛田 豊一 会員
 職業分類 企業保険
 事業所名 日本生命保険相互会社
 役職名 刈谷支社長

所属委員会 会場委員会



永利 謙介 会員

クラブフォーラム

「私の留学～8月から今まで」

青少年交換学生

ローウェン・ステファンソン 君



私の家はカナダです。カナダからきました。私のスポンサーは、Meewasin RCです。

家族は、父ジェームス47才、母クリス47才、妹エマ17才、妹クエロ11才、イングリッシュブルドックのベニーです。日本はとてもおもしろいと思った。日本の食べ物おいしいと思った。日本人はいいと思ってました。

8月23日に日本にきました。初日、とても緊張していた。でも最初のごはんは、ラーメンを食べて、とてもおいしかったです。最初のホストファミリーは、天野家、誕生日パーティをしてくれたり温泉にも行った。

高校は刈谷北高校に通学している。初めて学生服をきて、同級生が歓迎会をしてくれた。学園祭や体育大会も参加した。とてもたのしかった。体育大会では、一日中外にいたのでひどい日やけをしてしまった。

出口家や、下谷家、山口家、中林家とホストファミリーでお世話になった。私の父がお世話になったホストファミリーにも横井さんのうちにも行ってきました。RCではWFFや、スキー場にも行ってきた。

餅つきや、書道で自分の名前を書いた。ホストファミリーにはいろんなところへつれていってもらいました。本当に楽しかったです。修学旅行にも明日からいきます。

6月22日にカナダへ帰ります。日本食は、本当においしかったです。みなさんに感謝します。日本は素晴らしい国です。私は、日本が大好きです。本当にありがとうございました。みなさんに感謝します。

6月22日にカナダへ帰ります。

日本食は、本当においしかったです。みなさんに感謝します。日本は素晴らしい国です。私は、日本が大好きです。本当にありがとうございました。みなさんに感謝します。



「RYLA セミナー参加報告」

犬塚 望 様

(日高工業株式会社)



私は昨年度の3月24日～25日にかけて、ロータリークラブが主催するRYLAセミナーを受講させて頂きました。こういったセミナーを受ける機会が今まで無かったため、正直何をするのか不安すぎてあまり行きたくないと思っていたのを覚えています。ですが結論から言えば、その時初めて会った見ず知らずの人たちと意見を交わしながら交流する事が出来たので、とても楽しくて充実した2日間でした。今回はそのRYLAセミナーで私が学び、感じたことを写真をふまえて発表させていただきます。

まず、最初に事前に決められていたグループに受講生が集まる所から始まりました。この時点で知人と来ていた一部の人を除いて、みんな初対面だったので人間も部屋の空気も硬い状態でした。そこで一度全員が外に出てゲームをして緊張をほぐそうということで「人間知恵の輪」というのを行いました。人間知恵の輪とういのはみんなで輪になってランダムに手を取った後、その状態で円になるように解いていくという体で行う知恵の輪の事なのですが、最初こそは変に絡まったりして難しかったのですが、私のグループは他と比べて割と年齢層が高かったため落ち着いて対処していたと思います。絡み合った人たちが解けた時は私も輪の一部だったため写真はありません。ですがその輪が解けた時にはもうみんなの緊張も解けていたかなと思います。

そして部屋に戻りセミナーの本題であるテーマの発表がありました。テーマは「ロータリーの寛容とリーダーシップ」で、このテーマは一体どういう意味なのかをグループで考えて発表してくださいとのことでした。そこで早速3班に分かれて考えながらローテーションする方式にして意見を出し合いました。議論しだしてすぐにロータリーの寛容ってなに？となった為、私たちはまず寛容とリーダーシップについて考えていくことにしました。おのおの今までの経験や考えを言い合い、思いつかなかった様な色々な意見が出てきました。そして意見が出終わって煮詰まってきたときに全員で意見を出す方式に切り替えて、それぞれの考えをまとめていきました。話し合った結果、リーダーシップとは全員が持ち得ていて、目標に向かって動く主体性のある行動なのではないか。リーダーだけがリーダーシップを持っているわけではなく、意見する人にもより良くしたいという目標があるのだからリーダーシップがあるのではないか。意見を聞き受け入れる事に寛容性があるのではないかとまりました。

ある程度まとめ、発表のやり方は自由だったので発表形式を考えたところでその日のグループワークは終わりました。

しかしその後、発表メンバーや制作メンバーが時間外

にロビーに集まり話し合っただけのグループと被らない面白味のある発表にしよう等、更に議論を重ねていました。その為、その日に初めて出会った他人が次の日には仲良くなりこのグループに1つのチームのような団結力が出来ていました。そして数時間後に控えた発表の練習や制作物を追い込み、全員で発表のチェック等を行い緊張感が高まってきました。

いよいよ発表の時、私たちのグループは8回中の6番目だったので長いこと待たなければならず、とても緊張していました。また発表の内容がどこのグループも少し似ていたのが驚きましたが、私たちは発表のやり方にこだわったためどことも被る事無く順番が来ました。

私たちのグループはわかりやすく尚且面白く伝えるために、ベースの演劇型に資料型を掛け合わせた解説再現VTR式で発表させていただきました。動いていた人が急に止まり解説者が喋り出すという単純な流れですが、他のグループには無い発表だったので結果、笑いを取りつつも何が言いたいのかをしっかりと伝える事ができたと思います。

ある程度の人数が揃って同じテーマについて考えると最終的にどこも似たような内容になりましたが、表現や演出のやり方一つで理解度やとらえ方が大きく違って思えたので正確に考えを伝えるのは難しいと感じました。そして、このテーマに対してのロータリークラブとしての明確な答えは用意しておらず、「自分達で1からリーダーシップを発揮して協力して答えを出す」というテーマそのものの意味の大切さを学びました。

発表が終わった後の達成感とたった2日だけ仲良くなれたみんなとのお別れが来たときは寂しさもありましたが、今回のRYLAセミナーで意見を出し合い議論し、楽しみながら充実して学べた多くの事はこれからの生活にも反映されていくと思います。とてもいい経験になったので、もし今後このような機会があれば是非また参加させていただきたいです。

以上。

「様々なリーダーシップの在り方」 —セミナーを通じて得られたもの—

前田 純樹 様
(愛知教育大学)

mjのセミナーの感想

このセミナーの感想は大きく二つあります。

一つは、本当に楽しくて、第4分科会のみんなに出会えて嬉しかったという気持ちです。

もう一つは、僕自身が実は卒業研究のテーマとして、学校教員のリーダーシップについてやりたいと考えていますので、それについて非常に有益な示唆を得られたということです。

「魚の骨」から見てきた様々なリーダーシップ

分科会での話し合いにおきましては、「魚の骨」とい

うマインドマップ作りを通して、リーダーシップに対する様々な捉え方について考えることができました。

話し合いを通して得られた結論が、リーダーシップの「PM理論」によく似た結果になったのがとても面白かったです。

PM理論とは、三隅（1966）が提唱した、リーダーシップをその機能に基づき分類する考え方です。

縁の下の力持ちタイプについて

みんなから出た意見では、「縁の下の力持ち」、「司令塔」と名付けられたリーダーシップのタイプがありました。

縁の下の力持ちは「中心に立って目立つことはしないけれど、陰で全体をサポートする」と定義づけていました。

これは、PM理論における「集団維持機能」(M機能)に当てはまるように思いました。

司令塔タイプについて

司令塔タイプは、「自分が動かず周りを動かす」と表現されていましたが、これは「課題達成機能」(P機能)の一つの側面を示していたように思います。

そして、話し合いの中で分科会のみんなが自然と使っていた、全てのリーダーシップの下支えとなっている、寛容の心。こんなにもメンバーの話をしっかり聞いて、見て、積極的に協同しようとするチームを、僕は初めて見ました。

違った道に進む方々に出会えたこと

また、教育大学というものに通っていますと、必然的に学校教員や、教育関連、或いは人への支援を中心とした職業を目指す人とばかり付き合うことになります。

ですので、そういった僕ら「支援業」のような分野以外の道に進んだ年代と話をし、また関係が作れるというのは、僕にとってとても貴重な機会でありました。

専門的にリーダーシップについて学んでいなくても、深く考え、みんなで意見を出しあうことで、研究で提唱されているような考え方へと辿り着いたことに非常に驚きました。

今回の僕は、分科会においては言わば「縁の下の力持ち」に徹したつもりで、みんなを鼓舞し、意見を引き出し、みんなの中にあるものを形にしていく、そんな役割をしようと考えていました。

これは教師としても、例えば学校のクラス運営において、大切な担うべき役割の一つと考えているので、このセミナーでの成功は、とても嬉しいものでした。

現在学校教育では「主体的で深い学び」を通して、子どもたち自身で課題を設定し、追及していく力を養うことが求められています。

今回のセミナーを通して、子どもたちにとってより実りある調べ学習や話し合い・討論を、授業においてセッティングしていくことへの、一つのヒントを得られたのではないかと考えております。

最後に

この度の報告会に参加できなかったことは、非常に残念です。大学の勉強を、本日はしっかり頑張りたいと思います。

ライラセミナーでは、僅か2日間しか会わなかったにも関わらず、第4分科会のみんなとは強い絆ができたと感じました。

人との出会いの不思議さ、おもしろさ、楽しさを感じました。このような機会を頂いたこと、感謝しております。

5月度刈谷 RC ゴルフ例会

平成30年5月10日(木)

於：多治見カントリークラブ

成績	氏名	G	H	N
優勝	神谷 光義	94	20	74
2位	盛田 豊一	80	5	75
3位	横山 宜幸	84	7	77
B B	鈴木 豊	116	18	98

